

INFORMATION Book

中央公民館
図書室から
お知らせです

ほん 大好き



中央公民館図書室 ☎42局7200番

今月 **新しく** 入りました。

※ 10月の新刊は、1日（木）からの貸出となります。

● 一般の本

スクラップアンドビルド（作＝羽田圭介）
砂の王宮（作＝楡 周平）
スカラムーシュ・ムーン（作＝海堂 尊）
モダン（作＝原田マハ）
老いは楽しい（作＝斎藤茂太）
新社会基盤 マイナンバーの全貌（作＝森田 朗）

● 子どもの本

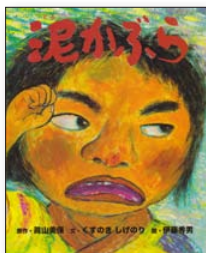
アンパンマンのこもりうた（作＝やなせたかし）
やさいのおしゃべり（作＝泉 なほ）
できることおてつだい（作＝くすのき しげのり）
ふしぎなくり（作＝ヨシナガ といとうみわ）
ねんねのおとがきこえるよ（作＝きたやま ようこ）
モリくんのハロウィンカー（作＝かんべ あやこ）

新しくなった母と子の図書室で **図書室読書まつり** を行います。



中央公民館内、母と子の図書室が改修工事を終えて新しくなりました。町ではこの新しくなった図書室で次のとおり図書室読書まつりを行います。絵本の読み聞かせや楽しい工作、ビンゴ大会などを通して親同士、子同士の交流を深め合ってみませんか。

- とき 10月31日（土）午前10時から
- ところ 中央公民館（母と子の図書室）



泥かぶら
作＝眞山美保

昔、ある村に「泥かぶら」と呼ばれた女の子がいました。身寄りもなく村中の人から「汚い」「醜い」とバカにされ、酷い仕打ちを受けるときに人を恨み、ますます乱暴になっていきました。そんな「泥かぶら」は旅の老人から、三つの約束を教えてもらいます。「自分の顔を恥ずかしいと思わないこと」「どんな時にもにこりと笑うこと」「人の身になって思うこと」心豊かに生きるには…。心についた泥を落とすことで、人間の本质に美しい真心があられます。



虚空の旅人
作＝上橋菜穂子

隣 国サンガルへ赴いた新皇太子チャグムは、国のしきりにより殺される運命にある少女と出会う。しかし少女の背後にはサンガル転覆を図る陰謀が…。チャグムは陰謀を阻止し、少女を救出することができぬのか。皇太子としての自分に葛藤しつつも、一人の人間としてまっすぐな姿勢を貫くチャグムの意思と決意に心揺さぶられる一冊。

本は知識を深めるだけでなく、人と人とのつながりを広げてくれます。新たな本との出会いは新たな人との出会いの始まり。広がる本だなどは、新たな本との出会いの場として、毎月おすすめの本を2冊紹介いたします。今月の紹介者は加留部君子さん（文庫連絡会）です。

広がる本だなど

ADVICE Health

リハビリテーション科
副科長・島津の

くらて病院スタッフ
からの健康
アドバイスです

調子はいかが？

くらて病院 ☎42局1231番



母が回復期リハビリ病棟へ転院することになりましたが、どんな病棟なのかよく分かりません。リハビリの事とあわせて教えてください。(20歳・女性)

リハビリテーション

リハビリ(リハビリテーション)には理学療法、作業療法、言語療法の3種類があります。寝返る、起き上がる、座る、立つ、歩くなど日常生活に必要な「基本動作能力」の回復を行う理学療法士。食べる、排泄する、入浴するなど日常生活をより快適に過ごすための「応用動作能力」の回復を行う作業療法士。言語聴覚、発声・発音、認知などの各機能が関係する「ことば」によるコミュニケーション」の回復を行い、摂食・嚥下の問題にも専門的に対応する言語聴覚士など国家資格を持った専門技士がいます。それぞれの技士は、医師の

指示のもとに、専門的な知識や技術を用いて、患者の機能回復を目指していきます。

回復期リハビリ病棟とは

リハビリは、急性期、回復期、維持期に分類できます。その中でも回復期は、機能回復が最も期待できる時期であり、その時期に当たる人を受け入れ、多くの医療専門職がチームを組んで、自宅復帰や社会復帰できるよう、リハビリを日常生活から集中的に行う病棟を回復期リハビリ病棟といいます。

入院生活

くらて病院の場々

回復期リハビリ病棟には、対象となる疾患や入院するま

での期間、入院してから退院するまでの期限が決められています(※下表参照)。

入院後、医師が診察を行い、状況に応じてリハビリの種類を決定し、入院当日からリハビリが開始されます。自宅や社会復帰を目的とした日常生活動作を改善するためのリハビリ計画書を毎月作成し、患者や家族に説明して今後の目標を調整していきます。入院中は、廊下を歩く、トイレに行く、着替えるなど、生活のすべてにリハビリの視点を持つ「生活まるごとリハビリテーション」を合言葉に、スタッフが援助を行っています。住宅改修や介助方法のアドバイス、介護保険等を利用したサービスの検討も行います。

回復期リハビリ病棟では、機能回復が最も期待できる時期(回復期)にある人を受け入れ、自宅復帰や社会復帰できるよう、リハビリを日常生活から集中的に行っています。



「アドバイザー」

島津哲治・しまつてつじ・平成2年長崎リハビリテーション学院卒業。同年鞍手町立病院リハビリテーション科勤務。平成27年4月より地方独立行政法人くらて病院リハビリテーション科副科長。

※回復期リハビリテーション病棟の入院条件や日数条件について

	疾患・状態	入院条件	日数条件
1	脳血管疾患、脊髄損傷、頭部外傷、くも膜下出血のシャント手術後 など		算定開始日から起算して150日以内
2	1の状態であり、高次脳機能障害を伴った重症脳血管障害の場合 など	発症後または手術後	◇ 180日以内
3	大腿骨・骨盤・脊椎・股関節・ひざ関節の骨折など	2か月以内	◇ 90日以内
4	外科手術または肺炎等の治療時の安静により廃用症候群を有しており、手術後または発症後の状態		
5	大腿骨・骨盤・脊椎・股関節・ひざ関節の神経、筋またはじん帯損傷後の状態	発症後または手術後	◇ 60日以内
6	股関節・ひざ関節の置換術後の状態	1か月以内	◇ 90日以内